

職員アンケート S G H 5年間の総括

① G L クラス（国際交流・課題研究英語発表の中心）の教育効果を検証します。

大きな教育効果がある。	教育効果がある。	あまり教育効果を感じない。	問題が大きい	分からない
25%	51%	10%	6%	8%

（プラス）

コミュニケーションが活発

前向きで活動的なクラスの雰囲気が生まれる。

英語発表、英語学習、外部発表にも前向き

英語発表班が切磋琢磨

（マイナス）

SGH への取組においては、普通科他クラスとの「大きな差」が生まれる。

一部ではあるが、入学時の GL クラス選択を後悔する生徒もいる。

② 5カ国・国際交流の教育効果を検証します。

大きな教育効果がある。	教育効果がある。	あまり教育効果を感じない。	問題が大きい	分からない
80%	6%	0%	0%	14%

（プラス）

教育効果は極めて肯定的 高評価

要はコスト（財源確保）、職員負担との兼ね合い

③ G L アクティブ（大学訪問、歴博、イスラムモスク、佐原街並み）の教育効果を検証します。

大きな教育効果がある。	教育効果がある。	あまり教育効果を感じない。	問題が大きい	分からない
46%	40%	4%	0%	14%

（プラス）

教育効果は大

これもコスト・負担 費用対効果の問題

④ G L 探究（普通科・課題研究）の教育効果を検証します。

大きな教育効果がある。	教育効果がある。	あまり教育効果を感じない。	問題が大きい	分からない
31%	53%	8%	0%	8%

(プラス)

これもおおむね肯定的

教育効果、成長の手ごたえを感じるのは、将来の大学入学後になる。

職員負担は増える。求める内容・レベルは常に検討を要する。

⑤ 英語発表の教育効果を検証します。

大きな教育効果がある。	教育効果がある。	あまり教育効果を感じない。	問題が大きい	分からない
66%	20%	6%	0%	8%

(プラス)

これも教育効果は高い。

懸念材料は、英語科職員の負担

⑥ GL教科（英語・地歴公民）の教育効果を検証します。

大きな教育効果がある。	教育効果がある。	あまり教育効果を感じない。	問題が大きい	分からない
8%	28%	42%	0%	22%

教育課程上の科目と大幅に異なるわけではないので、違いが評価しにくい。(生徒の意識上も、教員の評価上も)

今の時代当然取り組むべき話題、育むべき力はGLであってもなくても同じなので差別化する必要を感じない(英語)

教員が意図して生み出した教育内容の違いが、生徒にどのように意識されるのか、デジタル化・見える化できない。

教員側もGL化に手ごたえを感じるデータが存在しない。

ただし本校全体の学力向上はデータとしてあらわれている。

⑦ これからの普通科・探究学習で、重視すべき目標を、選択してください。

課題発見力（違和感や疑問を拾いあげ、学びにつなげる好奇心）	41%
課題研究の手法を学び、研究サイクルを体験し得た経験値（大学研究への助走）	18%
協働してプロジェクトを成し遂げるコミュニケーション能力	18%
表現能力（プレゼンテーション体験とその能力の向上）	12%
研究内容（質・正確性・エビデンス）	11%

探究は総合的な学びなので特定の項目だけを伸ばそうというものではないし、無視していいものでもない。

テーマ設定が重要で、それ次第で研究の歩みが決まってしまうことを体感。

本校生徒の与えられた課題の処理能力は高いが、課題発見力もそれに比例して高いわけではない。